

私のリズム 好きも苦手も全部 私

富岡西高等学校 一年

前田 陽菜 まえだ ひな

(敬称略)

私は運動が苦手です。小学生の頃、運動会や体育の授業で走ったりする時には、いつも他のクラスメイトに追い抜かれ、できない自分が恥ずかしくて仕方ありませんでした。特に、持久走などの時は、練習をしても自信が持てず、どれだけ頑張っても「遅い自分」ばかりが目立ち、心の中では「どうして他のみんなと同じように走れないんだろう」と感じていました。いつも、体育の時間が来るたびに、また「できない自分」を見せるのが怖くなり、心の中で「またあの時間がやってくる」と暗い気持ちになっていました。

そんな私に自信を与えてくれたのが、習い事として続けていた阿波踊りです。私は小さい頃から地元の阿波踊りの連に参加していてリズムに合わせて、体を動かすことで、自分を表現する楽しさを知りました。もちろん、阿波踊りも、速さや正確さは大切です。ですが、それらだけでなく、リズムを感じて自分らしく踊ることも大切だと教えてもらいました。自分のペースで踊りながら、他の人と合わせることで少しずつ「できること」に自信が持てるようになりました。自分のリズムで楽しむことで、自信となり、少しずつ自分の苦手な部分も受け入れられるようになりました。

高校に入ると、体育の授業や部活で、中学校とはまた違った新しい挑戦が待っていました。例えば、運動の苦手な私にとっては、最初はかなりプレッシャーを感じる場面もありました。しかし、周りの友達と協力し合いながら少しずつ取り組むことで、焦らず、自分のペースで頑張る大切さを学びました。部活でも、仲間たちがサポートしてくれたおかげで、少しずつできることが増えてきました。みんなと一緒にやることで、私は「できないこと」を必要以上に意識しなくなり、自分を過度に責めることもなくなり、楽しむことができるようになったのです。

阿波踊りのように、あえて型にハマりきらずに、自分らしさを大切にしていけることが、どれほど大切かを感じています。この考え方は他の分野にも通じると思います。近年の社会においても、みんなが自分の個性を大切にし、お互いに尊重し合うことが必要だと強く思うようになりました。人権とは、すべての人が自分らしく生きるために平等に持っている権利であり、それを認め合う社会を作るために、私は自分らしさを大切にし、周り

の個性も尊重していききたいと思っています。違いを認め合うことで、お互いを支え合い共に成長できる社会ができると信じています。

私は、自分の苦手なことに直面するたびにできないことに焦点を当ててしまいがちでした。しかし、阿波踊りや学校生活を通じて、できることを大切にし、自分のリズムで生きることの大切さを学びました。それは私にとって大きな変化であり、自分の苦手なことを無理に変えようとするのではなく、できることを深めていくことの方が重要だと気づいたのです。自分にしかできないことに自信を持ち、それを大切にしていくことが、自分を強くし、社会にも良い影響を与えるのだと思います。

これからも、私は自分ができていることに誇りを持ちながら、他の人たちの個性も尊重していききたいと思っています。それぞれの違いを認め合い、協力し合いながら、より良い社会を作るために自分の力を尽くしていきたいです。苦手なことがあっても、「できない自分」を責めるのではなく、その中で自分らしさを発揮できる場所を見つけ、周りと共に生きていける社会をめざしていきたいと思っています。

たとえ得意なことが目立たなくても、誰にでも必ず輝ける場所はあると、私は信じています。自分のリズムを大切にすることが、自分らしく生きる第一歩だと思うのです。